令和４年度第１回肝炎対策協議会　議事録

日時：令和４年８月２日（火）１５：００～１６：００

場所：オンライン開催

* 議事録の文章は、実際の発言の趣旨を損なわない程度に、読みやすく整理したものです。

（司会）

ただいまから、令和４年度第１回福岡県肝炎対策協議会を開催いたします。

委員の皆様方におかれましては、お忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。私は、福岡県保健医療介護部がん感染症疾病対策課の柏田と申します。よろしくお願いいたします。

　福岡県肝炎対策協議会委員の名簿は、お手元に配付のとおりです。

役員の改選、人事異動により新たに、大牟田医師会の鳥村委員、福岡市保健予防課長の麻生委員にご就任いただいております。

また、本日は５名の委員が欠席されており、９名の委員にご出席いただいております。

なお、北九州市につきましては、梅田委員の代理として、溝口 感染症医療政策課　予防接種係長にご出席いただいております。

本日はWEBにて会議を開催させていただいております。

基本はミュートに設定していただき、発言される際に、ミュートを解除していただきますようお願いします。

ここで、事務局を代表いたしまして、がん感染症疾病対策課長の牟田口からご挨拶申し上げる予定でありましたが、業務の都合で急遽欠席することになりましたので、私から挨拶を代読させていただきます。

【課長挨拶代読】

（司会）

次に、配付資料の確認をさせていただきます。

【資料の確認】

（司会）

なお、本日の協議会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、傍聴者の募集は行っておりません。

議事内容につきましては、ホームページへ掲載予定となっておりますのでご了承いただきますようお願いいたします。

それでは、肝炎対策協議会設置要綱第６条の規定により、本協議会の会議は委員長が議長となりますので、議事の進行につきましては、向坂委員長にお願いいたします。

（向坂委員長）

それでは議事に入ります。

はじめに、（１）協議事項の「福岡県肝疾患専門医療機関について」事務局から説明をお願いします。

【事務局説明「肝疾患専門医療機関の指定について」】

（向坂委員長）

事務局の説明は終わりました。ご質問ご意見はございませんか。

それでは事務局から示された案を今回の指定要件としたいと思います。

次に（２）報告事項「福岡県の肝炎対策について」事務局から説明をお願いします。

【事務局説明「福岡県の肝炎対策について」】

（向坂委員長）

事務局の説明は終わりました。ご質問ご意見はございませんか。

資料２の４ページを見てください。肝炎ウイルス無料検査の陽性者の精密検査受診率がありますが、特にC型について、昨年の受診率は高いですが、今年度は低くなっています。このことについて事務局に聞いたところ、今年度に関しましては、直近を含むデータであるため、まだ受診状況が確認できていないものがあるためとのことでした。県の方もすごく努力されて十分高いのではないかと思います。久留米市も十分高いですが、北九州市と福岡市は人口が多いというのもありますが、令和２年度に比べて令和３年度が低いのは、直近のデータについて、まだ受診状況が確認できていないものがあるためとのことでした。ほかに委員の方からご質問はありますか。

（事務局）

　本日、欠席されております日本肝臓病患者団体協議会の大賀委員からあらかじめご意見を伺っておりますので、ご紹介したいと思います。

　本日、患者会として関係国会議員の事務所を訪問して、肝がん・重度肝硬変患者医療費助成制度の認定基準緩和を求める陳情活動を予定しています。

　明日は厚労省肝炎対策推進室にも来年度予算を含め、肝がん・重度肝硬変患者医療費助成制度の認定基準緩和を求めて陳情予定です。

　このように、肝炎患者にとりまして、肝がんと重度肝硬変患者の医療費支援の改善・充実が喫緊の課題であり、今年の衆参両院に対して国会請願も致しました。残念ながら否決されましたが、せっかくの患者救済制度がほとんど機能していない現実があります。

福岡県の実績もわずかな数値となっています。

　国は、医療現場への周知徹底不足を主な理由に挙げていますが、患者会は基準の厳しさ、手続きの難しさにあるととらえています。肝臓病に対する新薬開発は目覚ましいものがありますが、その恩恵に浴さない末期の肝臓病患者は、医療費支援が何よりの救済措置なのです。残る時間もないのです。

　福岡県におきましても、改善の余地はあるかと思います。福岡県から厚労省に早急なる基準緩和を働きかけてくださるようにお願い申し上げます。

　以上が大賀委員からのご意見でございますが、県といたしましては、現状を確認の上、検討し、必要な対応を行ってまいりたいと考えております。

（向坂委員長）

　ありがとうございました。大賀委員がおっしゃるのはごく当然のことであり、我々肝疾患の専門家からしても何回も入院しないといけないなど、非常にハードルが高いというのがあり、実際に該当する人は余命がそんなにないです。亡くなる前にそういうのを認めてもらっても意味がないので、もっと早期の段階で認めるなど、必要ではないかと思います。

一方、ペースメーカーをつけた人などは、全部医療費が無料になるなど、分野によって濃淡が非常に激しいので、肝臓学会としても非常に問題視されています。

私の方からも肝臓学会の理事に伝えたいと思います。どうもありがとうございました。

（向坂委員長）

それでは次に、令和３年度の肝疾患診療連携拠点病院の実績について説明をお願いします。

【拠点病院事務局説明「肝疾患診療連携拠点病院の実績について」】

（向坂委員長）

ありがとうございました。事務局からの説明は以上ですが、どなたかご質問、ご意見はございませんか。先ほどの県の方もそうですが、拠点病院もコロナで非常に難しい中で、養成講座などを開催しています。参加の方はウェブの方が参加しやすいという方も多いと思うので、少なくともコーディネーターの数などを見れば、一定の水準のことができているのではないかと思います。それでは、意見がなければ次に行きたいと思います。

（向坂委員長）

　最後に「（３）その他」です。

　どなたかご質問やご意見はございますか。

　県の方も非常に大変な資料を作っていただきました。本当にありがとうございます。

　県の方も県民に対する周知というものが、いろいろなイベントがコロナで中止になって

いるので難しい面もあったと思いますけれども、地道に努力されているのが分かると思います。

　他に井出先生からは何かありませんか。

（井出委員）

　確かに向坂先生がおっしゃいましたように、コロナでいろいろ難しかったですが、WEBで開催することによる良い点も見つかったりして、コロナも流行っていますけれども、肝炎にも興味を持つ方も多いので、引き続きやっていきたいと思います。

（向坂委員長）

　ありがとうございました。

　コロナで肝炎ウイルス検査を受ける人も減っていると思います。

　病院としてもコロナを警戒して受診者を抑制しているというのもあると思います。

それでは、本日予定していました議事は終了しました。事務局は本日の意見を踏まえて、専門医療機関募集の準備を行っていただきたいと思います。

円滑な議事にご協力いただきありがとうございました。

それでは進行を事務局にお返しします。

（司会）

向坂委員長、議事進行ありがとうございました。

本日の皆様にご協議いただいた結果を踏まえまして、福岡県肝疾患専門医療機関の指定につきまして、募集の準備を進めてまいります。

なお、次回の福岡県肝炎対策協議会は来年２月頃を予定していますので、よろしくお願いいたします。

これをもちまして協議会を終了いたします。

ご協力ありがとうございました。